

経営比較分析表（令和元年度決算）

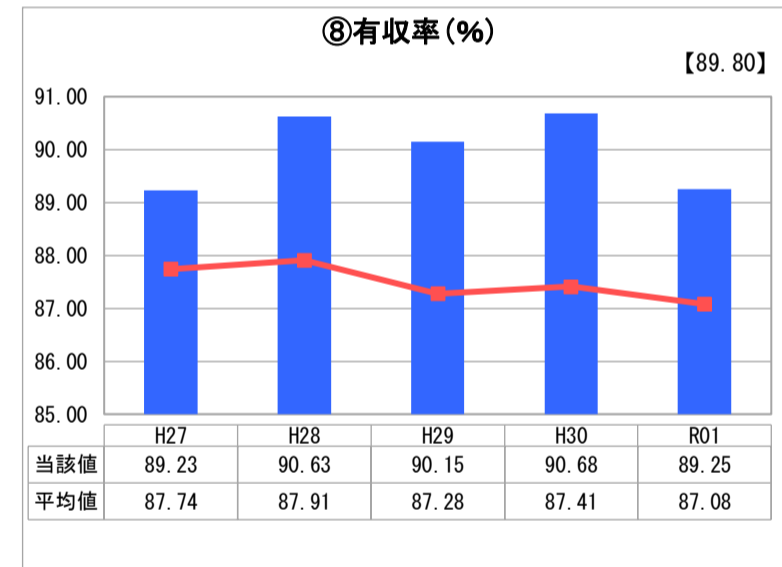
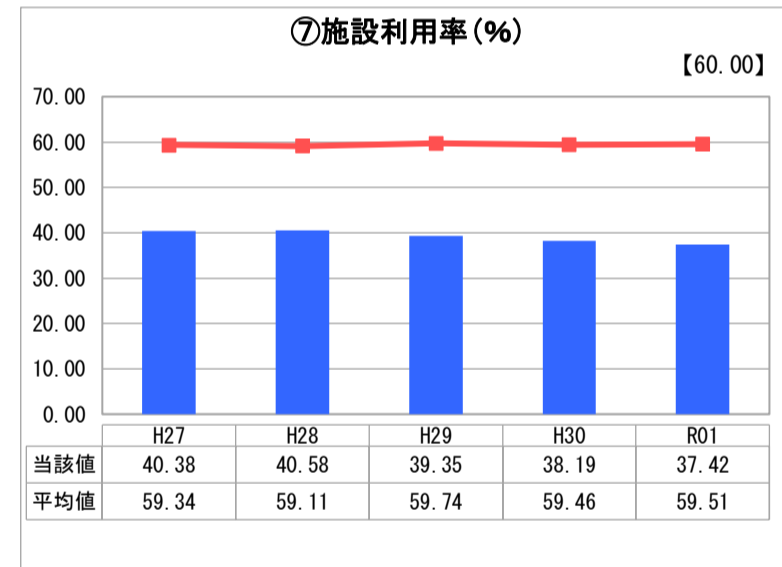
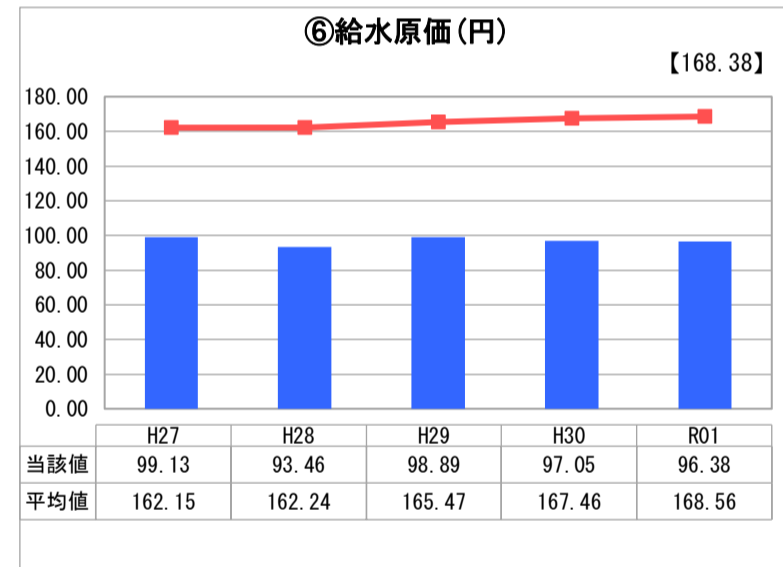
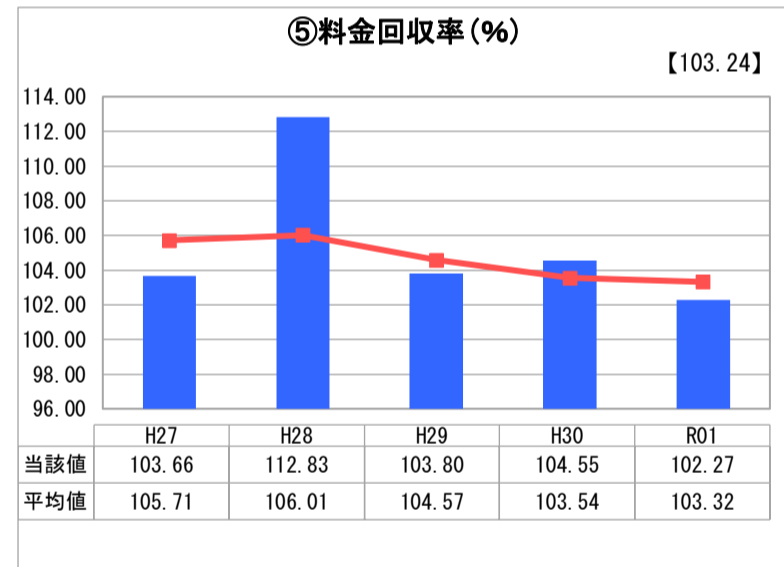
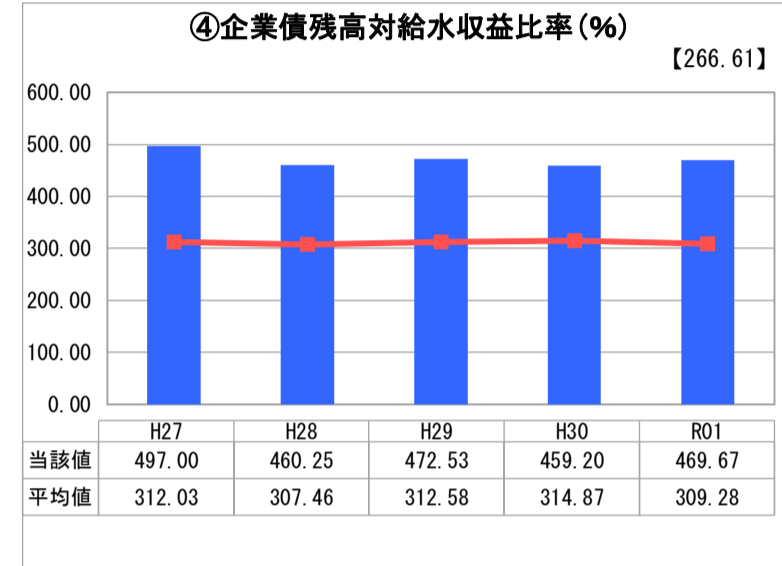
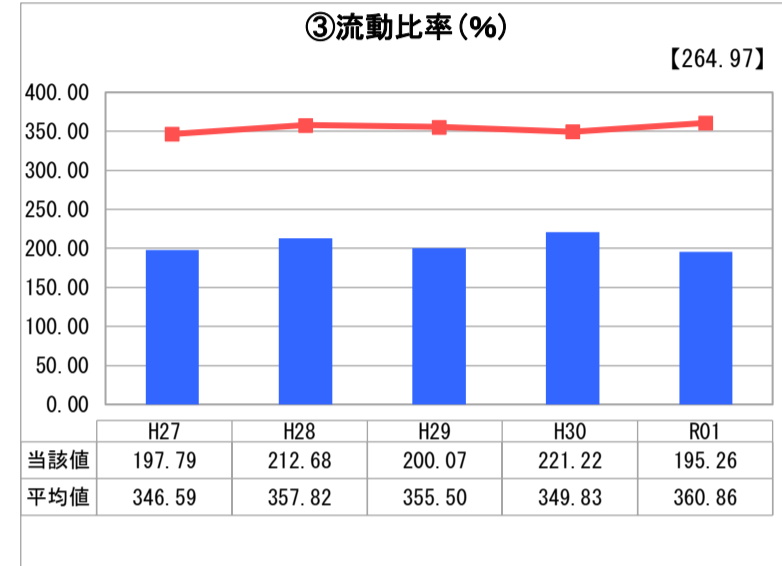
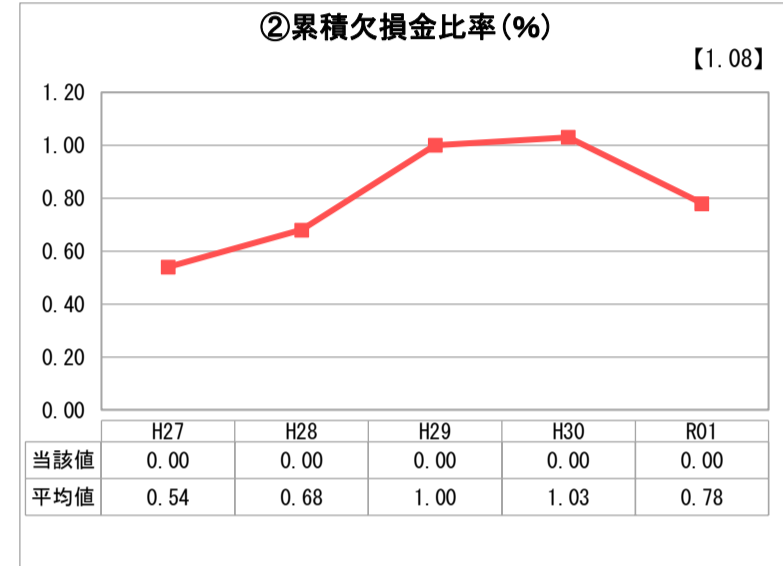
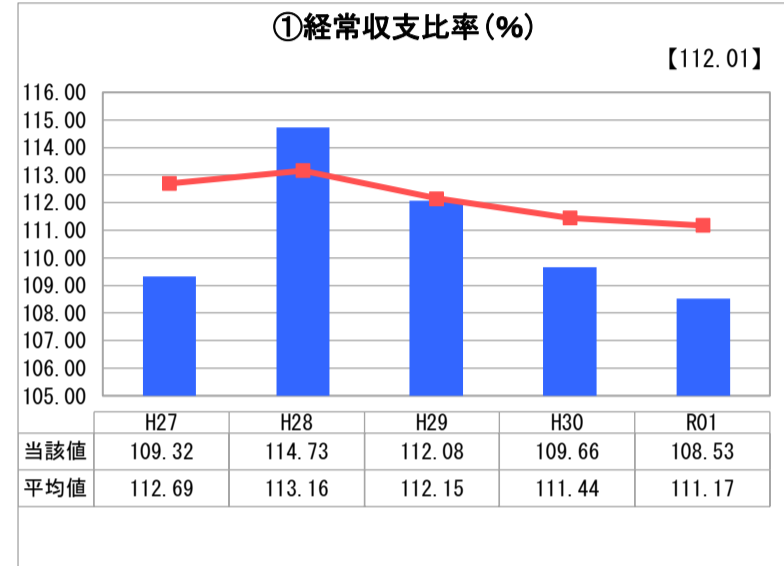
兵庫県 高砂市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A4	自治体職員
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	57.64	100.00	1,463	

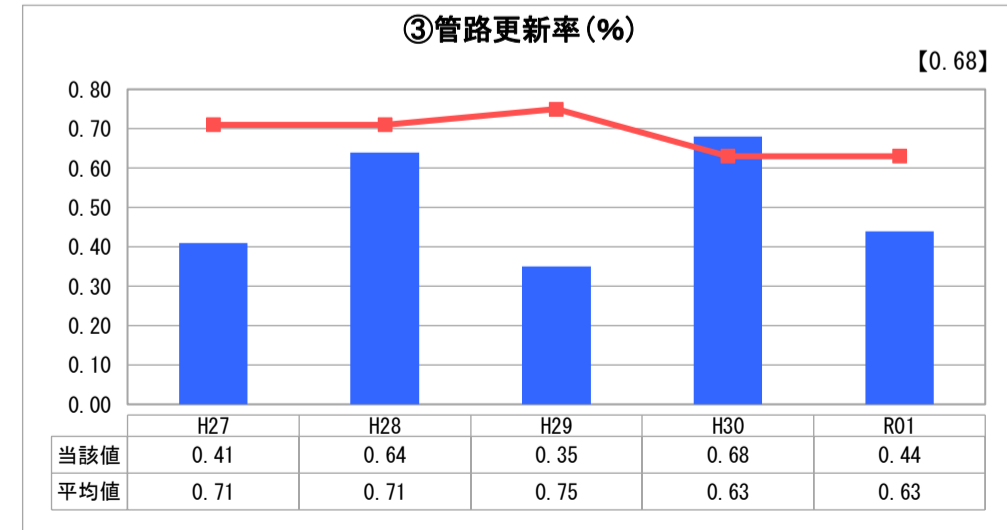
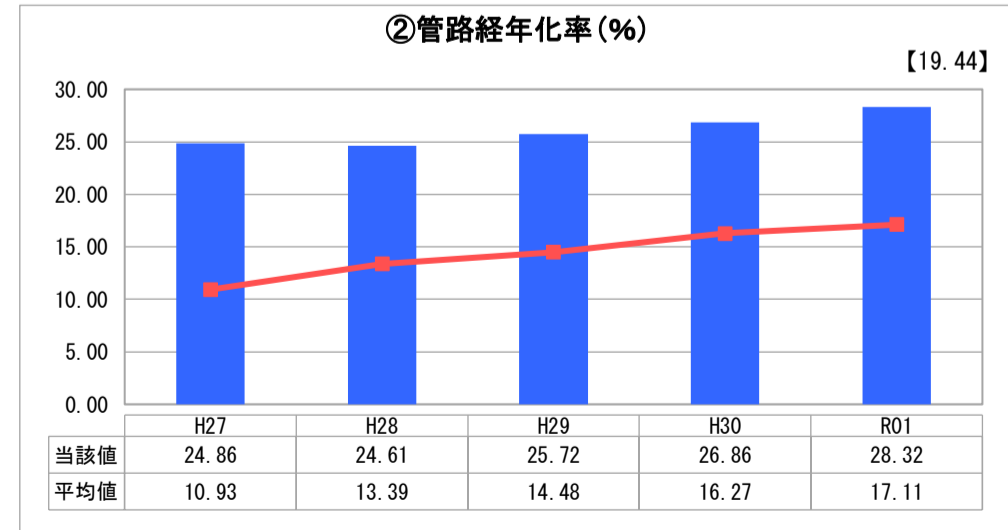
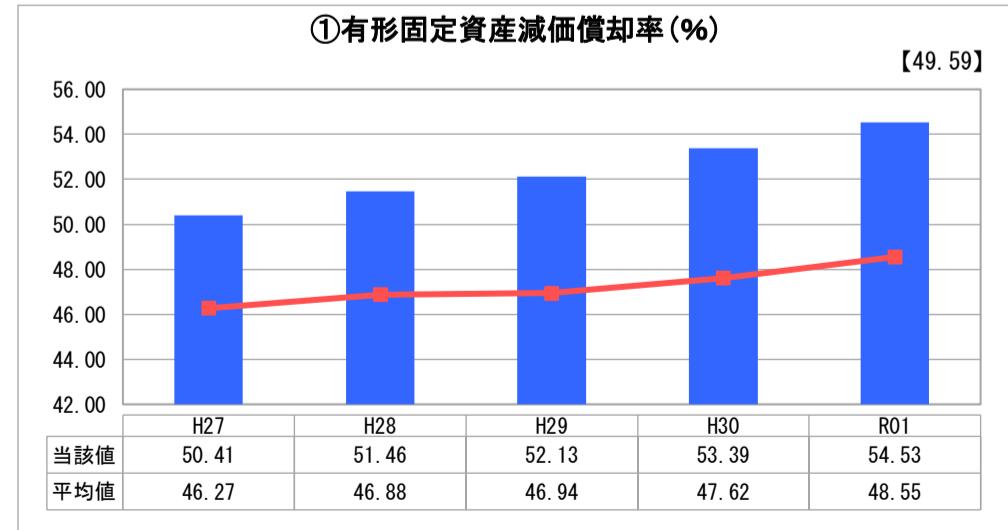
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
90,462	34.38	2,631.24
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
94,754	29.20	3,245.00

グラフ凡例
■ 当該団体値(当該値)
— 類似団体平均値(平均値)
【】 令和元年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

平成30年度と比較すると経常収支比率が1.13%減少し、3年連続の減少となったが、110,536千円の純利益を計上し、良好な経営状況となっている。ただし、流動比率（短期的な債務に対する支払能力）や施設利用率の指標が類似団体平均より低い値となっている。流動比率は約200%で支払能力に問題は無く、施設利用率が低いのは、単一の浄水施設で運営しており、施設・設備の事業面での効率性が図りにくいからである。

企業債残高対給水収益比率は、企業債残高は2億円減少したが、給水収益も減少したため比率は約470%と類似団体平均より高く推移している。

給水原価は類似団体平均より低い100円未満で、料金回収率も100%を超えており、良好に推移している。有収率は1.43%減少し、89.25%と悪化している。

2. 老朽化の状況について

有形固定資産減価償却率は増加傾向であり、施設全体で老朽化が進んでいる。送配水管については、管路経年化率と管路更新率の数値から明らかなように適正な更新ペースとなっていない。これは、高砂市が進める浸水対策事業等に伴う受託工事を優先的に行っている事も影響している。

全体総括

収益的収支については、良好な経営状況であるが、施設や管路の老朽化対策や耐震化対策などを進めるためには財源の確保が課題となっている。

令和元年度に上下水道事業審議会を立ち上げ、有識者・市民の意見を活かし、米田水源地再構築基本計画や送配水管更新計画などの中長期的な投資計画に基づいた収支計画を反映した水道事業経営戦略を令和3年3月に策定する予定としている。